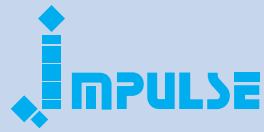


YAKUDO

Vol.62

埼玉県商工会青年部連合会



2026



まごころ
ありったけの**まごころ**で紡ぐ**地域**と**仲間**たち

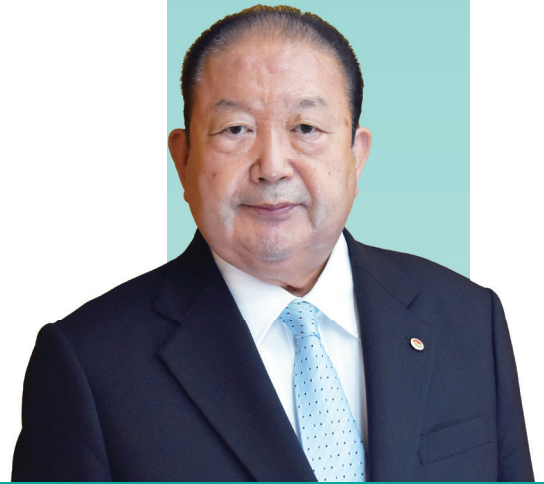


躍動

発刊に寄せて

埼玉県商工会連合会

会長 江原 貞治



商工会青年部の皆様には、商工会活動の一翼を担いながら、地域商工業の振興、更には地域の福祉活動等に平素から御尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、初の女性総理大臣が誕生し、新しい時代への期待が高まる一方で、円安や国際情勢の変動、原材料価格高騰の影響を受け、依然として中小企業・小規模事業者にとりまして厳しい経営環境が続いた1年でございました。加えて、エネルギー・仕入れ価格の上昇、最低賃金の引き上げ、人手不足など、事業者を取り巻く課題は多岐にわたっております。

こうした状況の中にあっても、本会は「商工会法施行65周年・県連合会創立75周年」という大きな節目を無事迎えることができました。これもひとえに、永年にわたり商工会組織を支えてこられた諸先輩方、そして地域に根差した活動を力強く展開してくださっている商工会青年部の皆様をはじめとする関係各位の御尽力の賜物であり、ここに改めて深甚なる感謝と敬意を表する次第でございます。

本年も、県内52商工会の皆様と一層の連携を図り、持続可能な埼玉県経済の構築を目指し、商工業者の繁栄と地域経済の活性化に資する諸施策を推進してまいります。とりわけ、人口減少・少子化という地域の構造的課題が進行する中であって、将来を担う若い経営者の集まりである青年部の皆様の活動は、地域活力の源泉であり、大きな希望であります。こうした期待のもと、地域の皆様に信頼され、親しまれる商工会づくりを念頭に、誠心誠意努めてまいり所存でございますので、引き続き県連事業への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、商工会青年部の皆様の御健勝と御多幸、そしてそれぞれの地域の更なる発展を心より祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

埼玉県商工会青年部連合会 第28代会長

白戸 翔

埼玉県商工会青年部連合会の活動に、日頃より深い御理解と多大なる御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

各単会で汗をかき続けてくださる部員の皆さん、日々支えてくださる御家族、そして親会・関係団体の皆さまに、第28代埼玉県青連会長として改めて感謝申し上げます。

去年は、物価高騰や人手不足など厳しい環境の中でも、各地で仲間が知恵を出し合い、地域のために動き続けてきた一年でした。迷いながらも前に進む姿、後輩を守り抜く姿、やり切る姿に、私は何度も背中を押されました。

その歩みは成果としても実を結びました。第25回商工会青年部全国大会主張発表では久喜市商工会青年部の竹下学くんが最優秀賞を受賞。部員増強運動では戸田市商工会青年部が全国日本一に輝き、埼玉県青連としても連合会部門で日本一を達成できました。日々の地道な活動と、仲間を信じ抜いた結果です。

青年部活動は、評価されにくく成果が見えにくいこともあります。それでも、地域に寄り添い、仲間を輝かせ、つなぎ、未来への土台を築き続ける。その積み重ねこそが、やがて地域を動かす原動力になると信じています。

第28代埼玉県青連は「ありったけの^{まごころ}愛心で紡ぐ地域と仲間たち」を軸に、各単会の活動を本気でつなげ、広がっていきます。私たちの運動の根っこは、商工会青年部宣言と誓いの言葉です。ここをぶらさず、行動で示していきます。運動とは、一度きりで終わらせず、続けて広げる活動です。点で終わる事業を、次の挑戦につながる流れに変え、称え愛、支え愛の文化を各地に根付かせていきましょう。

そして来年度は、埼玉主管による関東ブロック前期大会という大きな節目を迎えます。関東の仲間たちを迎えるその舞台は、埼玉が積み上げてきた実践を示し、次の挑戦を呼び込むチャンスでもあります。埼玉から関東へ、そして関東から全国へ。^{まごころ}愛心の輪を広げる一年にしていきます。埼玉一丸となって臨みましょう。部長の皆さん、各組織の役職者の皆さん。現場は、皆さんと共に動きます。私は、皆さんの挑戦を信じ、背

中を支え、共に責任を負います。各地域で埼玉県青連の力が必要な場面があれば、どうか遠慮なく声をかけてください。皆さんが一步踏み出すその瞬間に、県青連は必ず隣にいます。一人で抱え込まないでください。困った時は声を上げてください。必ず仲間が受け止めます。

共に悩み、共に挑み、共に未来を切り拓いていきましょう。地域を照らすのは、特別な誰かではなく、日々動く私たち自身です。埼玉の誇りを胸に、今年も本気で走り抜いていきましょう。





埼玉県商工会青年部連合会
理事

神谷 譲

埼玉県商工会青年部連合会
理事

福澤 豊治

埼玉県商工会青年部連合会
第28代副会長

尾身 憲一

戸田市商工会青年部
部長

入船 優太

埼玉県商工会青年部連合会
第28代会長

白戸 翔

戸田市商工会青年部

令和7年度 部員増強運動 “全国1位” 受賞記念インタビュー

圧倒的な熱量と緻密な分析が切り拓いた「日本一」への軌跡

「日本一」の宣言から始まった逆転劇

福澤理事（以下福澤） 令和7年度商工会青年部全国大会において、部員増強運動で見事全国第1位に輝かれました。埼玉県としても、そして同じ志を持つ仲間としても大変誇らしい快挙です。誠におめでとうございます！まずは率直なご感想をお聞かせください。

入船部長（以下入船） ありがとうございます。率直な感想を申し上げれば、喜びよりも先に「ようやく肩の荷が下りた、ホッとした」という安堵感が一番にきています。実は2年前、私が部長内定者として紹介された忘年会での出来事がすべての原動力でした。当時の戸田市商工会青年部は、正直に言って「存続の危機」にありました。OBや現役員から「若手が少なく、アクティブな人間も減っている。このままでは会の継続すら危ういぞ」と、かなり厳しい言葉を投げかけられたんです。もともと負けず嫌いな性格もありますが、その言葉に激しい悔しさを覚えました。そこで私は「見ててください、圧倒的な結果を出して日本一を取ります」とその場で大見得を切ってしまったんです。周囲からは「またデカいことを言って」と失笑を買いましたが、あの日、自分の中で「退路を断った」ことが、この2年間の凄まじい原動力になったのは間違いありません。宣言した以上、手ぶらで帰るわけにはいかなかったのです。

福澤 当時の部員数は40名ほどだったと

伺っています。そこから全国1位（1年間で30名以上の純増）を狙うのは、並大抵の覚悟ではなかったはずですよ。

入船 自分のつながりがある経営者の中で、まだ入会していない方が20名ほど頭に浮かんでいましたので、「自分の人脈だけで20人はいける」という計算はありました。しかし、いざ蓋を開けてみると、口約束では入ってくれても、実際に書類を書いてもらうまでのハードルは想像以上に高かった。周囲には「酒を飲んで口説きに行っただけ」と冗談めかして言っていましたが、内心では常に数字のプレッシャーと戦っていました。毎週のように前ブロック長に連絡を取り、過去の全国1位のボーダーラインや推移データを照会しては、「あと何人積み上げれば確実に勝てるか」と、まるで受験生のように戦略を練り直す日々でした。一時期は夢にまで数字が出てくるほど、執念を持って取り組んでいました。

師を仰ぎ、ライバルと競い合う「拡大の戦略」

福澤 私の所属する久喜市商工会青年部も、昨年は全国一を目指して死に物狂いで増強に励んでいました。途中から「戸田の勢いが異常だ」と、県内全域で噂になっていたんですよ。

入船 久喜さんの動向は、私の最大のベンチマークであり、最大のモチベーションでし

た。実は、私の師匠である天笠歴代（部長）も、かつて県内1位を僅差で逃した経験があり、その時の悔しさを私は一番近くで見ました。師匠が果たせなかった夢を、さらに大きな「全国1位」という形でお返ししたいという、恩返し気持も強かったです。事務局をお願いして、久喜さんの過去数年の推移データを取り寄せたこともあります。「どの月に、どのタイミングで数字が跳ねるのか」を徹底的に分析し、自分たちの月ごとの目標値を設定していきました。ただ、単会だけが勝てばいいとは思っていません。最近では和光さんのように「戸田ができるなら、自分たちも全国を目指したい」と公言してくれる単会が現れ始めました。自分たちだけが突出するのではなく、こうした「情熱の連鎖」が埼玉県全体に広がっていくこそが、部員増強の本当の価値だと信じています。競い合いがあるからこそ、私たちは強くなれるのです。

「飲食店」を起点とした戦略的マーケティング

福澤 具体的にどのような手法で、それほど多くの経営者の心を動かしたのでしょうか。

入船 私は戸田市内でヘアサロンを4店舗経営しており、経営者として日頃から「どのエリアにどんなニーズがあるか」というマーケティングを徹底しています。その視点をその



まま青年部に持ち込みました。ターゲットにしたのは、まず徹底的に「飲食店」です。なぜ飲食店なのか。理由は二つあります。一つは、飲食店にとって青年部に入るメリット（部員が店を利用する、定例会後の懇親会会場になる）が非常に分かりやすいこと。もう一つは、飲食店は地域の情報が集まる「ハブ」だからです。一人の飲食店オーナーと繋がれば、その背後には数十人の経営者のネットワークが見えてきます。ただし、いきなり勧誘に行くのは絶対にやりません。私はターゲットにしたお店には、最低でも3回は通うことに決めています。

・1回目：15分～20分程度、あえて忙しい時間を外して顔を出し、普通に客として食事を楽しみます。「近くで商売してる入船です」と存在を認識してもらい、いわば顔見せです。

・2回目：少しゆっくりできる時間帯に再訪し、街づくりの苦労話や共通の知人の話題で、経営者同士の信頼の土台を作ります。相手の悩みを聞き出すことに徹します。

・3回目：信頼関係ができたところで、初めて「実はこういう会があるんだけど、君の力が必要なんだ」と、メリットとデメリットを誠実に整理して切り出す。「何を言うか」よりも「誰が言うか」、そして「聞く側の準備ができてるか」が重要です。飲食店の方が入部してくれれば、そこへ集まる他の経営者や二代目の情報がリアルタイムで入ってきます。その情報を基にまた新しい候補者へコンタクトを取る。この緻密な勝ち筋のサイクルを回し続けました。

組織を動かす「損して得取れ」の精神

白戸会長（以下白戸） 緻密な分析と、泥臭い信頼構築。その両輪が見事に噛み合っていますね。入船部長が常に口にされる「損して得取れ」という言葉には、どのような想いが込められているのでしょうか。

入船 青年部活動、特に部員増強というのは、組織にとっては大きな「得」ですが、動く個人にとっては、自分の時間もお金も浪費する、一見すると「損」な役回りです。しかし、誰かが先にその損を喜んで引き受け、善意を循環させれば、巡り巡って必ず自分に返ってき

ます。これは商売の原理原則と同じです。例えば、今回の組閣の際、私は「定例会にはなかなか出られないが、地域で圧倒的な影響力を持つ飲食店のオーナー」をあえて副委員長に指名しました。周囲からは「幽霊部員になるのでは」という懸念もありましたが、私は毎週彼のお店に通い、シャンパンを空け、商売人として敬意を払い続けました。そして「2年間で3人、君の信頼している仲間を連れてきてほしい。君にしかできない仕事だ」と、明確かつ重いミッションを託しました。時には茶目っ気たっぷりに、時には真剣に。「入船さんがそこまで言うなら、一肌脱ぐよ」と彼らが動いてくれたとき、組織の爆発力が生まれました。リーダーシップとは、指示を出すことではなく「覚悟」を見せることだと思います。まずは私が、誰よりも「損」を引き受けて動くこと。その背中を見せることで、ようやく部員たちも「部長がここまでやっているなら、自分たちも何か役に立ちたい」という自発的なモードに切り替わってくれました。

急増した部員を「定着・活性化」させる仕組み

神谷理事（以下神谷） 部員が1年でこれほど増えると、入会後のフォローや教育、組織としてのまとまりを維持するのが大変ではないでしょうか。いわゆる「数の拡大」に質が追いつかない懸念はありませんか。

入船 おっしゃる通り、それが最大の課題でした。しかし、戸田にはいわゆる「分厚いマニュアル」は存在しません。私は、北海道大学のクラーク博士が残した「Be Gentleman（紳士であれ）」という言葉大切にしています。青年部においても、「損して得取れ」という本質的な哲学さえ共有できていれば、細かいルールで縛る必要はないと考えているからです。その代わりに、運営面では徹底的な「効率化」と「利便性」を追求しています。

・**会議のあり方を変える**：昔ながらの「資料の読み合わせ」は一切廃止しました。資料は事前配信し、会議自体は60分以内に完結させます。浮いた時間を懇親会に充て、そこで本音のビジネス相談や連携を深めます。「会議のための会議」ではなく、「ビジネスと仲間作りのための時間」への転換です。

・**即戦力としての登用**：新入部員にはすぐに小さな役割を与えます。イベントの担当や、専門スキルを活かせる場面を意図的に作り、成功体験を積ませることで「自分はこの会に必要とされている」という実感を早期に持ってもらいます。

・**デジタルレガシーの構築**：部員同士の事業



内容が詳細に分かり、受発注や紹介がスムーズに行える会員専用のWEBサイトを構築しています。これにより、「入ってよかった」という経済的メリットを可視化しています。「入船さんがすごいから付いていく」という属人的な組織は脆いです。私が去った後も、「青年部にいれば商売が繁盛し、最高の仲間ができる」という仕組みそのものをレガシー（遺産）として残したい。それが私の責任だと思っています。

次なる舞台、埼玉県開催の「関東大会」へ

福澤 次年度、いよいよ埼玉県で「関東大会」が開催されます。白戸会長、この勢いをどう繋げていかれますか。

白戸 11年に一度の主管県という、我々にとって最大のチャンスです。戸田さんのような「有言実行」の成功事例は、県内すべての単会に勇気を与えてくれました。「自分たちも本気でやればできるんだ」というマインドセットが、今、埼玉県全体に広がっています。多くの部員にとって、一生に一度の経験になるでしょう。大会スローガンである『ありったけの愛心（まごころ）で紡ぐ地域と仲間たち～競い合いの大会を、称え愛の大会へ～』。この言葉通り、互いの成功を喜び合い、高め合える組織として、埼玉の底力を全国に知らしめたいと思います。

福澤 次年度に向けた戸田さんの意気込みをお聞かせいただけますか。

入船 私の部長2年目のスローガンは「損して得とれ」～交わり活かせ～です。日本一という結果は、あくまで通過点に過ぎません。増えた仲間たち一人ひとりが、青年部というプラットフォームを通じてビジネスで成功し、戸田という街を、そして埼玉県を盛り上げていけるよう、これからも全力で駆け抜けます。また、これから全国を目指す他の単会の方々には、「まずは部長が狂ったように動くこと。そして、部員を信じて役割を任せること」を伝えたいですね。そうすれば、必ず景色は変わります。

福澤 緻密な戦略と、人を惹きつける熱い人間味。その両方を感じる素晴らしいお話でした。本日はありがとうございました！

久喜市商工会青年部
部長

稲生和正

埼玉県商工会青年部連合会
第28代会長

白戸翔

久喜市商工会青年部 副部長
令和7年度商工会青年部全国大会主張大会
最優秀賞受賞

竹下学

久喜市商工会青年部

悲願の全国制覇！久喜市商工会青年部が語る「伴走型支援」と「仲間の絆」

令和7年度商工会青年部全国大会主張発表大会において最優秀賞を受賞した久喜市商工会青年部。14年ぶりの全国大会出場、そして初となる全国制覇という快挙を成し遂げた、主張者の竹下副部長、稲生部長、そして白戸会長に、その舞台裏と組織のあり方についてインタビューを行いました。

全国制覇の瞬間 積み上げたバトンが結実した日

福澤理事（以下福澤） 稲生部長、竹下副部長、まずは全国大会での最優秀賞受賞、誠にありがとうございます！全国制覇という頂上に立った今、率直な感想をお聞かせください。

稲生部長（以下稲生） ありがとうございます。一言で言えば「喜びが爆発した」という感覚です。私が青年部に入部した当時、ちょうど全国大会に出場された偉大な先輩がいらっしゃいました。当時はその凄さが十分に理解できていなかったのですが、活動を重ね、主張大会の重みを知るにつれ、それがどれほど高い壁であるかを痛感してきました。在籍14年目で、この栄冠を手にしたことは、

純粹に心の底から嬉しい瞬間でした。

竹下副部長（以下竹下） 私は入会以来、ずっと設営側として主張大会を支えてきました。久喜市商工会青年部は事業の質も高く、主張大会に関するノウハウも蓄積されていました。ですから、「いつか必ず勝つだろう」という確信はあったんです。今回はたまたま私にバトンが回ってきましたが、これは私一人の勝利ではなく、これまで歴代の主張者が積み上げてきた努力がようやく結実したものだと思っています。私個人が勝ったというより、「久喜が、そして埼玉が勝った」という意識が非常に強いですね。

「完全伴走型」が生んだ 圧倒的なクオリティ

福澤 県大会から関東、そして全国へと続く約半年間の道のりは非常に過酷だったと思います。どのような準備をされ、どのような苦労がありましたか？

稲生 部長としては、主張者がいかにストレスなく、最高のパフォーマンスを発揮できる環境を作るかに腐心しました。具体的には、主張者を全面的にバックアップする専用の委員会を設置し、そこを重点的にフォローする体制を整えました。部員一人ひとりに動いて

もらうのは大変なことですが、その経験の先にある個々の成長を信じていました。

竹下 久喜の強みは、まさにその「完全伴走型」の支援体制にあります。私が「練習したい」と言い出す前に、周りが「練習しませんか？」「原稿と一緒に直しませんか？」と声をかけてくれるんです。部長が外部からアドバイザーを呼んで客観的な意見を取り入れてくれることもありました。私はもともと書くことが好きでしたが、それでも独りよがりにならず、早い段階で主張を客観視できたのは、この徹底したサポートのおかげです。

福澤 精神的な面での苦労はいかがでしたか？

竹下 準備は万全でしたが、やはり本番のステージで「いきなり一人になる」恐怖はすごかったです（笑）。練習は常に仲間の温かい眼差しの中で行いますが、本番のステージは孤独で、毎回猛烈に緊張しました。全国大会の控室で他の出場者と話した際、一人で原稿を書き、一人で練習してきたという方がいて驚きました。久喜では当たり前だと思っていた「仲間との伴走」が、実はどれほど贅沢で心強いことだったのかを改めて実感しましたね。





「勝てない理由が分からない」 立候補に込めた覚悟

福澤 竹下副部長は、なぜ今回、主張者として立候補されたのでしょうか？

竹下 長年支援側に回っていて、ずっと「もやもや」していたんです。「これだけ素晴らしい活動をしている久喜が、なぜ勝てないんだ？絶対に勝てるはずだ！」と。その消化不良な思いを抱えたまま終わるくらいなら、自分でやってやろうと。基本は推薦制なのですが、無理を言って立候補させていただきました。「これでダメならもう諦める」という背水の陣でしたね。

福澤 その覚悟が全国制覇をたぐり寄せたのですね。大会を経て、ご自身の中で変化はありましたか？

竹下 実は私、少しひねくれたところがあって、人の善意を心の底からは信用しきれない部分があったんです（笑）。でも、今回みんなが自分のこと以上に喜んで、本気で応援してくれる姿を見て、「こんなに温かく受け入れられていたんだ」と再確認できました。仲間のことが本当に大好きになりましたね。

組織に起きた化学反応と「次」への視座

福澤 全国制覇という偉業を成し遂げた後、単会（久喜市商工会青年部）に変化はありましたか？

福澤 部員たちの事業に対する姿勢が、劇的に前向きになりました。皆が率先して動くようになり、組織全体に活気が溢れています。竹下という男が「久喜」というブランドに鮮やかな彩りを加えてくれたおかげで、我々もそのブランドに見合う存在でなければならぬ、という心地よい緊張感が生まれています。

福澤 これから主張大会を目指す他の単会の方々へ、アドバイスや「秘訣」があれば教えてください。

福澤 伴走する側としては、「見守る」こと

と「信頼する」ことに徹することです。上が「こうしろ」と押し付けてしまえば意味がありません。担当委員会や部員たちが自分たちで導き出した答えを信じ抜くことが、結果として日本一に繋がりました。

竹下 主張者としては、モチベーションの維持が一番の鍵です。長丁場なので途中で満足してしまいそうになりますが、担当委員会が初日から「全国優勝するんだから、ここで満足しちゃダメです！」と尻を叩き続けてくれました。テクニック的なことと言えば、「内容の150%を伝えようとして、ようやく100%伝わる」という意識を持つことです。自分の想いはフルサイズでは伝わらないものだと思われれば、自然と新しい仲間も増えていくはずですから。

「競い合い」から「称え愛」へ 埼玉が作る未来

福澤 さて、来年度は埼玉県が主管となり、関東大会が開催されます。白戸会長、どのような大会にしていきたいとお考えですか？

白戸会長(以下白戸) 関東大会の主管が回ってくるのは11年に一度の貴重な機会です。

このメモリアルな大会を、今一緒に活動している仲間たちと最高の思い出にしたいと考えています。今回のサブタイトルには【競い合いの大会を、称え愛の大会へ】という言葉を追加しました。負けたら終わりではなく、勝ち上がった仲間を全員で応援し、お互いの健闘を称え合う。そんな青年部本来の意義を感じられる文化を、表舞台でももっと広めていきたい。年齢や地域が違って、「自分たちは仲間なんだ」と再確認し、明日からの活力になるような大会を目指します。

竹下 「称え愛」という言葉、本当に素晴らしいですね。

白戸 我々は経営者の集まりです。誰が見ても「カッコいい経営者」が集まっている組織だと思われれば、自然と新しい仲間も増えていくはずですから。

未来の仲間たちへ

福澤 最後に、竹下副部長にとって「青年部活動」とは何か、そしてこれから入会を考えている方へのメッセージをお願いします。

竹下 私にとって青年部活動は、もはや「人生の一部」です（笑）。今、プライベートで食事をするのもほとんどが青年部の仲間です。それほど深い絆ができました。青年部という組織は、世間が想像している以上に理知的で、洗練された、先進的な団体です。私自身、色々な勉強をしてきたつもりでしたが、それでも青年部での時間は非常に有意義で学びが多いと感じます。入会を迷っているなら、躊躇せず飛び込んでみてください。少し背伸びをして、広い世界へ向かっていけば、新しい視座が必ず開けます。ここは、自分を人間として成長させてくれる最高の場所です。

福澤 勇気を持って一步踏み出すことが、自身の成長と新しい未来に繋がるのです。本日は素晴らしいお話をありがとうございました。改めて、全国制覇おめでとうございました！



“今しかできない” 中塚 嘉浩



今年度、第1ブロックは福利厚生委員会を担当し、鴻巣市商工会青年部全面の協力のもとチャリティ企画「ドッチビーフレンドシップマッチ」を開催しました。県内から120名を超える参加者が集い、交流を深める機会となりました。一方で、福祉啓蒙の面では課題も残り、次年度へ引き継ぎたいと考えております。

ブロック運営では「今しかできない」を合言葉に、各単会が主体的に交流事業や主張大会、顕彰に参加してくれました。その中で特に際立ったのは、どの単会も部員増強に力を入れてくれた事です。一年間を通じお互いに切磋琢磨しながら、戸田市商工会青年部が部員増強で全国1位という快挙を達成し、朝霞市商工会青年部も女性部員新規加入数で全国表彰を受けるなど、成果の多い一年となりました。

私自身、県青連への出向を通じて多くの仲間と出会えたこと、またその絆を深めていけている事が自覚できる一年となりました。この経験をもとに二年目も職責を全うしていくとともに、この魅力を一人でも多くの部員さんに伝えていきたいと思ひます。引き続き皆様方の御支援をお願いいたします。

鴻巣市 部長 齋藤 宏樹



鴻巣市商工会青年部は、日本有数のプログラムを持つ「こうのす花火大会」を主催しています。部員は、大会の企画・設置を通して、多くのことを学び、強く団結して各事業に取り組んでいます。花火大会のほか、チャリティゴルフ大会や、サンタ事業など、地域の方々から愛される事業を継続して実施しています。

東松山市 部長 長島 秀樹



東松山市商工会青年部は、令和8年度に創部65周年を迎える埼玉県の中で最も伝統と歴史のある青年部です。現在の部員数は85名が在籍しており、地域の振興発展に努め東松山の元気を活かしながら、東松山を盛り上げるため積極的に活動しています。

入間市 部長 有田 賢吾



入間市商工会青年部は主に市内各地域にて行われる祭りの出店やその他地域活性化活動を通じて地域の方々や交流を図っております。一昨年より地元のお子様を対象とした大規模鬼ごっこイベント「脱走中」では500名以上の方にご参加いただき入間市を盛り上げる事が出来ました。今後も入間市を明るく元気な街にしていけるよう積極的に活動してまいります。

富士見市 部長 今成 優太



我々は地域とのつながりを大切にし、活動を通じて地域に参画するとともに、スポーツや研修を通じ部員の親睦と資質向上に努めています。昨年は「サンタ花火事業」を実施し、地域に笑顔と感動を届けました。今後も富士見市の活性化に貢献してまいります。

ふじみ野市 部長 鈴木 雅美



おおい祭り・上福岡七夕まつり・産業まつりでのオムそば販売。チャリティーゴルフ大会、デキる大人のビジネスマナー講座、ポイ捨て及び路上喫煙防止キャンペーンの駅前通りの清掃活動、献血運動等様々な事業を実施。商工会法施行65周年・県連合会創立75周年記念式典にて優良青年部として埼玉県知事表彰を賜りました！！

日高市 部長 五十嵐 淳



部員の資質向上や日高市の賑わい創出、地域の将来を支える子どもたちに喜んでもらえる事業を中心に日々活動を行っております。特に主催事業である「青年部夏まつり事業」は第2ブロックの他の青年部の協力も得て盛大に開催され、夏休み最後の日曜日に地域の子どもの思い出づくりに大きく寄与しております。

毛呂山町 部長 坂本 栄治



毛呂山町商工会青年部は、毛呂山町の地域活性化を考え、産業まつりでの青年部特製激辛カレーの出店や各種イベント事業への出店、12月にはイルミネーション事業を実施しております。他にも、他単会や他団体との交流事業にも積極的に参加しております。今後もさらに毛呂山町を盛り上げられるように努めてまいります。

越生町 部長 島田 拓也



難読地名で有名な越生（おこせ）町商工会青年部です。5月第2週土曜日に実施される花火大会や11/3産業祭などの運営サポートを行っています。近年では越生町出身のラップグループSUSHIBOYSライブ時の出店協力を行いました。また、越生の特色である地域貢献事業として地元の小・中学校に奉仕作業を行い、愛する越生町に役に立ちたいと日々青年部活動を実施しております。

三芳町 部長 山田 貴文



三芳町商工会青年部は、地域活性化を目指し、「三芳さくら祭」「みよしまつり」「三芳町産業祭」では、ダーツボール・わなげ出店をしています。また、チャリティゴルフ大会などの企画・運営もしており、地域住民との交流を深め地域の発展に貢献する活動を積極的に行っています。

嵐山町 部長 米持 裕也



私たちは嵐山町商工会青年部は、嵐山夏まつりや嵐山まつりなど、町の活性化を目的としたイベントに運営協力しております。また、国道254号沿いを中心とした清掃活動を定期的実施しており、年間を通して活動しています。

ときがわ町 部長 坂本 栄治



私たち、ときがわ町商工会青年部はときがわ納涼まつり、木のくにときがわまつりなど、ときがわ町の地域活性化・地域振興を目的としたイベントへ運営協力しております。その他には、青年部員の資質向上、見識を広めるための視察研修を実施するなど年間を通して活動しております。

川島町 部長 浅見 優麻



当会青年部では、サンタクロース事業や、かわしまランタン祭事業を通じて、地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。また、県外視察研修や各種イベントに出店をし、部員や他団体との交流を図ることができました。今後も地域の活性化に貢献していきたいと思ひます。

吉見町 部長 吉田 剛



吉見町商工会青年部では「第24回愛ラブよしみコンクール」を開催し、今年度も町内6小学校の児童を対象に吉見町の好きな風景・物・人物等を絵と作文で表現してもらい、図書館に作品を展示しました。投票により受賞者には商工祭のステージで表彰状の授与を行い、子どもたちの郷土愛と豊かな感性の育成に取り組んでいます。

戸田市 部長 入船 優太



戸田市商工会青年部は「損して得とれ」のスローガンのもと活動を行っております。今年度は部員増強に注力し、「青年部増強運動 新規加入実績」において全国第1位を獲得しました。その他革新委員会・研修委員会・部員交流委員会のそれぞれの部員が主体的に行動し、イベント企画・運営・セミナー等を行っております。

朝霞市 部長 渋谷 武史



朝霞市商工会青年部は、スローガン「知覚動考（ともかくうごこう）」のもと、まず行動する姿勢を大切に活動しています。今年度は30名以上の部員拡大を達成。事業者・経営者のご縁を結ぶ縁活事業をはじめ、青年部まつりや視察研修など、地域とつながる対外事業を展開しています。

桶川市 部長 安藤 圭介



桶川市商工会青年部は、若手経営者や後継者が集まるパワフルなチームです！ビジネスの成長を応援しながら、楽しく学び地域を盛り上げるイベントにも全力投球！愛する故郷桶川を熱く盛り上げています！

志木市 部長 安藤 圭介



スローガンは【真の仲間】。この言葉を胸に、私たちは講師例会による研鑽と、[OHANAFES2025]という新たな食フェスへの挑戦を形にできました。また、市民の皆様との距離を縮めるべく、私たちの「人となり」を発信する広報サイト「SHIKI-BITO」も立ち上げています。今年、25名以上の新しい力が加わったことは、私たちの誇りです。この強固なネットワークを活かし、今後も持続可能な地域貢献を目指して邁進いたします。

新座市 部長 高野 和哉



新座市商工会青年部は、部員100名を超える団体です。今年度のスローガンは「最高」を掲げ、部員が事業に参加することにより最高なシチュエーションに出会い、最高な思い出を作れるようやってきました。これからは「あの時は最高だったね!」と言えるような事業に取り組み、新座市を盛り上げていきたいと思っております。

和光市 部長 小松 翔



今年度は創部60周年の節目を迎え、「より活性化し和光の未来のために」をスローガンに、市内の小・中・高校生と共に各種事業に取り組みました。その結果、いづれの事業においても部員の7割強が参加し、部内の活性化にもつながりました。次年度に向けた確かな足がかりを築くことができた年度となりました。

北本市 部長 山口 修



北本市商工会青年部は「この街のヒーロー」を目指し、日々活動しています。青年部として地域イベントや行政、各種団体との連携を通じて、実践的な経験とつながりを築いてきました。事業発展とまちの活性化に本気で向き合い、今後も積極的に活動してまいります。

伊奈町 部長 川田 賢興



伊奈町商工会青年部は、「挑戦」のスローガンのもと、様々な活動を行っております。今年度は新たに部員募集ポスターを作成して、更なる組織の拡大を図りました。また、地域イベントへの模擬店出店やプロ野球選手を招聘しての野球教室など様々な事業を行い、まちづくりの原動力として伊奈町を盛り上げています。

坂戸市 部長 小川 卓也



「坂戸よさこい」への出店や産業まつりでのドーナツ販売・かるた展示を通じ、地域との絆を深めた一年でした。また、鶴ヶ島市との合同事業として福岡県久留米市へ視察研修を実施。市を越えた連携と先進地の学びを大きな糧としました。少数精鋭の結束力を武器に、広い視野を持ってさらなる地域振興に挑みます。

鶴ヶ島市 部長 向井 宏倫



鶴ヶ島市商工会青年部は、鶴ヶ島市の商工業者の地位向上を目指し様々な活動を行っています。青年部は特に若手経営者や起業者を対象としたセミナーや交流会を開催し、経営者同士のつながりやスキルアップの機会を提供しています。また、産業まつりに参加し、地域団体との交流を図るとともに商工業者のPRをおこなっています。

小川町 部長 高野 直樹



小川町商工会青年部は現在32名の部員で活動しており、他単会の青年部との交流も積極的に進めております。地域振興への協力や勉強会の他、令和10年度には創部60周年を迎えるため、周りの方々と繋がりを大切に、今後も活動を頑張って参ります。

滑川町 部長 野澤 勉



滑川町商工会青年部は、部員同士のネットワークを大切にしながら活動しています。子どもまつり・滑川まつり・さくらまつりなど、町内のおまつりへ出店し、地域との交流を深めています。今後も仲間とのつながりを広げ、更なる地域の活性化を目指します。

鳩山町 部長 小久保 裕哉



町長交代という転換点を経て、鳩山町は進化の過程にあります。鳩山町商工会青年部は若い町長を支えるエンジンとなり、その行動力を加速させることを目指しております。若い力で町の発展の一翼を担うべく、部員一丸となって邁進します。今こそ青年部の繋がりを強みとし、地域に活力を与える新たな風となりましょう。

2 第2ブロック報告 BLOC 第2ブロック長 向井 宏倫 “学びと交流”

令和7年度、第2ブロックでは、県青連スローガン「ありったけの愛心で紡ぐ地域と仲間たち」のもと、研修委員会を担当いたしました。変化の激しい社会や経済環境の中で、青年部が地域とどう向き合い、いかに自己成長を図るかが問われる一年となりました。



「愛心」の理念を胸に、自己研鑽と仲間とのつながりを重ね、地域社会に貢献できる組織を目指して活動を進めてまいりました。その一環として、経営コンサルタントの本橋聡氏を講師に迎え、経営戦略決断ゲーム「戦略うどん屋さん経営ゲーム」を用いた研修を企画。カードゲームを通じて経営判断や戦略思考を体感的に学ぶこの取り組みは、多くの気づきと刺激をもたらしたと思います。

また、第2ブロックのスローガン「まなぶ。つながる。ともに進む。」のとおり、単会を超えた交流が、部員一人ひとりの成長につながっていることを実感しています。

令和8年度は、関東大会が埼玉県で開催されます。青年部の価値を学びと実践を通じて体現し、その意義を仲間と地域に広げていけるよう、引き続き取り組んでまいります。

令和7年度、第3ブロックはスローガンに『進取果敢』を掲げて動き出しました。県青連では総務委員会として、埼玉県商工青年の主張大会と通常総会の運営を行い、特に主張大会では、久喜市商工会青年部所属の「竹下 学」君が見事、全国優勝を成し遂げ県内の青年部員全員の心を熱くしてくれた事と信じています。

第3ブロック内に於いては、役員改選初年度、単会の部長交代初年度となりブロック役員、単会部長も初めての挑戦・経験が多く苦慮された事もあったと思います。しかしブロック内各部長、ブロック役員を始め部員さん一人一人が取り組んだ事が確実に成長に繋がったと思います。正に『進取果敢』を体現した年度になったと確信しています。

そして、令和8年度はいよいよ埼玉県で『関東前期大会』が開催されます。第3ブロックは受付委員会を担当する事になります。今年度成長した皆さんと一丸となり大会を成功に導ける様、御協力の程よろしくお願致します。

結びにこの1年間、関わった全ての皆様に心より感謝申し上げ、私からの挨拶に代えさせていただきます。



ふかや市 部長 山口 悟司



昨年は、ふれあいカーニバルを6年ぶりに開催し、岡部地域を大いに盛り上げることができました。これからも、ふかや市商工会青年部は「強い深谷市」のスローガンのもと、地域の皆さまや他団体との連携を大切に、地域に貢献して参ります。

くまがや市 部長 我妻 啓一



地元熊谷の未来を背負うであろう若手経営者が集まる、くまがや市商工会青年部です。酒飲み部長を筆頭に、地域を盛り上げる為に一丸となり、そして、己を磨いている最中！そんな仲間達でございます。今後も、アップデートを重ね、様々な事業に取り組んでいきたいですね！よろしくお願致します。

皆野町 部長 小林 政之



皆野町商工会青年部は、部員数32名で、皆野町発祥の秩父音頭に込められた「こらしょ！」の精神のもと、力を合わせ声を掛け合いながら部員主体で地域の事業やイベントに取り組んでおります！仲良く・楽しく・前向きに、商工業の発展と町のにぎわい創出を通じ、皆野町を盛り上げてまいります。

長瀬町 部長 福島 慎二



長瀬町商工会青年部では、観光地・長瀬を舞台に部員数25名で活動しています。昨年度は、スローガン「一家団楽」のもと地域イベントへの出店などを行ってきました。部員一同、力を合わせて長瀬町活性化への立役者となるように日々の活動に励んでいきます。

西秩父 部長 黒沢 裕紀



西秩父商工会青年部は、部員数29名で地域の活性化を図る活動を行っています。令和4年より、廃校を利用した新事業「おがの花火大会」を主催し毎年大勢の方にご来場いただいております。次代を担う子ども達を喜ばせるような活動をこれからも続けて参ります。

荒川 部長 三上 喬



荒川商工会青年部は現在2名で活動をしています。3年前からはじめた黒板アート事業は青年部事業の柱となりました。地元の小学校へ卒業式、入学式に青年部から生徒にエールを込めて黒板に学校マスコットなどを描いてお祝いし、先生方、保護者、生徒さんから喜びの声をいただいています。部員増強も頑張っています。

東秩父村 部長 豊田 純基



私たちは埼玉県唯一の村の青年部として少数精鋭で一致団結して事業を行っています。昨年は主催としてファミリーレクリエーション大会を開催しました。青年部員とその家族85名でバーベキュー、ヤマメのつかみ取り、スイカ割りなど東秩父村の夏を楽しみました。

児玉 部長 坂本 大輔



児玉商工会青年部では、青年部活動に加え、他団体との交流を積極的に図り、児玉郡市内の横のつながりを深めながら、地域経済の向上に取り組んでいます。各団主体催のイベントに出店し、地域住民との交流を通じて、次世代を担う子どもたちに、地元には元気で活力ある商工業者があることを伝え続けています。

上里町 部長 堀込 佑太



上里町商工会青年部は、部員数20名で活動しております。日々、町の地域振興について考え、町内で開催されるイベントへの積極的な協力・出店、企画事業の運営などを行っております。今後もまちづくりを牽引していく団体として地域活性化のため日々精進してまいります。

神川町 部長 逸見 豪



神川町商工会青年部は、体育祭や産業祭の出店、イルミネーションイベントなど、地域を盛り上げる活動に注力しています。部員同士の仲が良く、和気あいあいとした雰囲気の中で活発に意見交換を行い、新たな事業の発案にも取り組んでいます。今後も親睦を深めながら、一丸となって神川町の未来を創っていきます。

美里町 部長 飯野 昌彦



当青年部は、現在25名にて活動しております。今年度は近隣商工会の事業に積極的に参加し広域的な地域振興を図っております。また、清掃活動や小学生や未就学児を対象としたサンタ事業も継続事業として行っています。勉強会や意見交換会なども行いこれからの担う世代として資質向上に努めてまいります。

寄居町 部長 大関 純一



寄居町商工会青年部は部員数37名。3ブロック長を輩出し、単会の垣根を越えた交流で学びを深め、寄居をより良くすることをモットーに活動中。イルミネーション事業を起点に、結束力と勢いある楽しい青年部を目指し、Instagramでも発信しています。

加須市

部長 榎本 正典



現在42名が在籍し、切磋琢磨しながら活動しています。主な事業として、小学生を対象とした職業体験イベント「キッズタウンフェスタ」、サンタが家にやってくる、資質向上研修事業等があります。部員一同、力を合わせて前に進んでいきます。意志あるところに道は拓ける！

羽生市

部長 秋元 周太



羽生市商工会青年部は現在35名の部員とともに各事業を通じて仲間と一致団結し、活動する充実感を得ながら活動しています。今回はSNS発信を強化して若手部員を獲得し、5年10年先も強い組織を目指します。また、創立60周年に向け全委員会でも一丸となり、地域振興の先駆者として前進していきます。

久喜市

部長 稲生 和正



『種をまこう！未来へ』のスローガンのもと、総勢82名で4つの委員会を構成し、自身の未来、地域の未来を考え日々青年部活動を行っています。令和7年度は悲願でもあった商工会青年部全国大会主張発表大会で最優秀賞を受賞させていただきました。これからもさらなる高みを目指し、楽しんで邁進してまいります。

八潮市

部長 菊池 優太



八潮市商工会青年部は今年の方針である『改革と拡大』と行動目標の『当然至極を疑う』を念頭に、部員全員で多くの活動を行ってまいりました。昨年は道路陥没事故により見送られた活動に代わり、新たに「コスモワークランド in やしお」を青年部主催で開催しました。引き続き一致団結し、八潮市を盛り上げてまいります。

三郷市

部長 郡 大毅



今年度は「部員を巻き込む青年部」を掲げ、世代交代の危機を好機に転じる勝負の年です。全青連会長お膝元への視察、AI分析による部員ニーズの追求を通じて、経営団体としての原点を見つめました。主軸の三郷花火大会など、曖昧だった地域貢献の目的を再定義し、若手主体で経営と地域を牽引する組織へと再生を図ります。

蓮田市

部長 市川 真也



現在36名が在籍しており、3月のさくらまつりでは5000羽のダックレースを開催、市民まつりへの参加、うたやの森フェスティバルの主催。その他県外研修・OB交流会・献血活動・ビジネス研修を開催しています。うたやの森フェスティバル今年度は11月1日（日）に開催！ぜひお越しください！

幸手市

部長 宮杉 憲佳



地域に根ざした若手経営者が集う幸手市商工会青年部は、事業研修や地域イベント、行政・学校との連携を通じ、次代を担う人材育成と幸手の魅力発信に挑戦し続けています。部員同士で切磋琢磨しながら、企業力向上と地域のさらなる活性化を実現していきます。

吉川市

部長 大熊 豪



当部主催の【YOSHIKAWA JAZZ NIGHT】は毎年約1万人の来場者数で地域を盛り上げています。令和7年度は【異なれ！】をテーマに活動し、最近では20歳の新入部員が加入するなど、部の活性は高まるばかり。今後も地域経済はもとより、部員一人一人の成長に向け事業を展開してゆきます。

白岡市

部長 内ヶ島 圭悟



白岡市商工会青年部は、今年度10名の新入部員を迎え、現在26名で活動しています。登録者400人超の公式LINEやInstagramを活用した情報発信にも力を入れ、「ゲームフェスタ」や「サンタがやってくる」など、地域の皆さまに楽しんでいただけるイベントを企画・運営し、まちなぎわいづくりに取り組んでいます。

宮代町

部長 後藤 克弥



今年度は「想い・実行・拡大・発展」を指針に、活動を開始した宮代町商工会青年部。地域事業や研修活動だけでなく宮代の未来のために結成された青年部発のヒーロー「ハナレンジャー」。その想いを基に地域活性化にも取り組み、次世代につながるまちづくりを進めています。

杉戸町

部長 大串 一祥



杉戸町商工会青年部は総勢31名で活動をしており、令和7年度には「戮力協心」を活動テーマに杉戸夏まつり、古利根川流灯まつり、高野台ハッピーハロウィン、商工祭等の地元杉戸町のイベントに多数参加し、社会福祉及び地域貢献活動に従事してまいりました。

松伏町

部長 小島 学



松伏町商工会青年部は昨年4名の新入部員を迎え、現在16名で活動しております。引き続き部員同士の交流も深めながら、新たな部員獲得に励んで参ります。そして、徐々に地域に認知されてきた「ハロウィン事業」や「松伏町民祭り」での活動を飛躍させ、地域に貢献し、自身の成長へ繋げて参ります。

庄和

部長 野村 一生



私たち庄和商工会青年部は、総勢41名で活動をしております。大風あげ祭り、夏まつり、産業祭にてゲームコーナーを出店し、まちなかイルミネーション事業やサンタクロース事業を通して庄和地区を盛り上げるべく部員同士日々交流を深めております。今後も青年部の魅力発信と地域を盛り上げていきたいと思っております。

第4ブロック報告 BLOC

“全力で行動しよう！次世代の人の為に！”

第4ブロック長 尾身 憲一

今年度、第4ブロックでは県青連において広報・IT委員会を担当しております。広報コンクールでは新たな基準のもと様々な手法の広報を平等に審査することができ、また各単会部長様には印象評価として御協力いただきました。大変ありがとうございました。またSNSに関しましても御尽力いただいた皆様には大変感謝申し上げます。今回の結果をさらにブラッシュアップし、商工会青年部が地域の皆様にさらに周知されるように微力ながら尽力してまいります。

ブロックとしては「全力で行動しよう！次世代の人の為に！」をスローガンに活動してまいりました。その中で地区制廃止後に初となる事業の広域連携事業「子供たちに自社をもっと知ってもらおう！PR大作戦」を行うことができました。青年部の各事業所が子供たちにより良く知ってもらえるのはもちろんの事、他業種のスケールメリットを最大限に活用した内容で将来子供たちが就職する際の選択の一助になったと思います。皆様と共にこの1年間多くを学ばせていただきました。本当にありがとうございました！



01
BLOC

北本市商工会青年部

部長 山口 修

地域と共に成長する青年部へ

北本市商工会青年部は、「この街のヒーロー」を目指し、事業発展とまちの活性化に取り組んでまいりました。

令和7年度は、献血運動による社会貢献活動をはじめ、宵まつり・産業まつりでは青年部員が経営する飲食店から商品を仕入れ、青年部員自らが販売を行い、PRを兼ねた地域振興事業を実施いたしました。

また、市内幼稚園にて開催した花育事業では、花や資材の提供や指導に青年部員が関わることで、子どもたちに対し、地元事業者の存在を身近に感じただけの良いい取り組みとなりました。

さらに、本年度の新規事業として、地域事業者と青年部が連携し、地域の子どもたちに多様な体験の場を提供し、新たな可能性の発見および健全な心身の育成を図ることを目的に、スポーツ・文化体験イベント「スポラボ!ミドリトテラス」を開催いたしました。当日は、各団体の特色を生かした体験ブースが多数並び、500人以上の子どもたちが参加し、会場全体では2000人以上の来場者でにぎわいました。

北本市商工会青年部は、今後も新たな挑戦を続けながら活動を継続してまいります。



03
BLOC

上里町商工会青年部

部長 堀込 佑太

地域に愛される青年部を目指して

上里町商工会青年部は、地域の皆さまに「身近で頼れる存在」と感じてもらえるよう、まちづくりの活動を行っています。

春には、より多くの仲間とともに地域を盛り上げていくため、部員増強活動を行っています。地域事業者への声かけや交流の機会を設け、魅力や活動内容を発信し、入部しやすい環境づくりを進めています。

夏・秋には、夕涼み会・ふれあいまつりへの出店や研修事業を行っています。「地域とともに、にぎわいを育てる」をモットーに地域を盛り上げる一員として参加しています。研修事業では、資質向上を目的にAI活用セミナーを開催し、自社業務の効率化に取り組みました。

冬には、上里ウインターフェスティバルを開催しています。今回は片平里菜さんをはじめとするアーティストによるライブやキッチンカー・物販などの出店で来場者の皆さまに楽しんでいただきました。また、高さ約12mのイルミが点灯され、会場全体が幻想的な雰囲気に包まれました。

上里町商工会青年部は今後もまちづくりの先駆者としての誇りを持ち活動を続けてまいります。



02
BLOC

東松山市商工会青年部

部長 長島 秀樹

東松山市商工会青年部は、令和8年度に創部65周年を迎えた、県内でも歴史と伝統のある青年部です。現在は85名の部員が在籍し、地域経済の活性化と東松山市のさらなる発展に寄与するため、会員相互の交流と連携を深めながら、地域に根差した各種事業の実施と組織力の向上に積極的に取り組んでおります。

令和7年度第2ブロック事業では、ボウリング大会および親睦会を開催いたしました。新たな交流の機会として企画し、17単会・60名以上のご参加をいただくなど、盛況のうちに終えることができました。これも幹事商工会をはじめ、各単会の部長様並びに役員の皆様のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

また、正副部長等会議には100名ほどの方にご参加いただき、ブロックの枠を越えた交流と情報共有を図る有意義な機会となりました。今後も連携を一層強化し、第2ブロック全体の結束と発展に努めてまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



意志あるところに道は拓ける

04
BLOC

加須市商工会青年部

部長 榎本 正典

令和7年度、加須市商工会青年部では、「万里一空」の意志あるところに道は拓ける」をスローガンに掲げ、活動してまいりました。

今年度はブロック幹事として、ブロック大会の運営に携わり、より多くの単会の方と交流を図ることができました。

また、我々の核となる事業、地域の小学生を対象にした職業体験イベント「キッズタウンフェスタ」を開催いたしました。この事業は、地域活性化を目的に、我々の事業所・仕事を知ってもらうことはもちろんのこと、地域に住む子供たちに、将来の夢を考えるきっかけとなる場を提供しています。イベント当日は、多くの来場者で賑わい、会場は子供たちの笑顔が溢れました。様々な困難もありましたが、部員同士協力し成し遂げられたことに、やりがいと充実感をえました。

その他にも、サンタが家にやってくる、部員交流、経営研修など地域貢献、部員自身の資質向上を目指す事業を行っています。

これからも地域から必要とされる団体であり続ける為にも、部員一丸となり活動していきます。



令和7年度 広報コンクール

多くの単会からご応募いただき心より感謝申し上げます。
ご応募いただきました作品は、令和8年2月10日(火)に埼玉県商工会連合会役員室にて審査会を実施いたしました。

最優秀賞

👑 鴻巣市商工会青年部 👑

優秀賞

朝霞市商工会青年部
和光市商工会青年部
八潮市商工会青年部

審査員
特別賞

和光市商工会青年部
越生町商工会青年部
幸手市商工会青年部

表彰式 ▶ 令和8年3月3日(火)全部長会議(川越市のラ・ボア・ラクテ)にて実施



外部審査員

株式会社 オズマピーアール
鈴木 元康 様

鈴木様よりいただいた
講評の全文はこちらから
ご覧いただけます! ▶▶▶



講評

今年度、令和7年の広報コンクールは、皆さんもご存じの通り、これまでと大きく変わりました。これまでの広報コンクールは、広報紙部門と広報活動部門の2部門にエントリーが分かれており、どちらかというと、広報紙部門がメイン、広報活動部門がサブという位置づけになっていました。そして、広報紙部門、広報活動部門のそれぞれの優秀賞と、両部門を合わせた最優秀賞と特別賞を選出する形でした。

今年度、形を変えた広報コンクールは、応募部門が一つになり、これまでの広報紙と広報活動を分けることなく、広報紙も含めた広報活動全体を審査基準に沿って採点する形に変更となりました。これは、大きな変更ですが、世の中にある、広報やPRに関するアワードと同じく、幅広い広報活動を総合的に審査する形になったと言えます。もちろん、こだわって作成している広報紙自体にクローズアップして評価をするという、これまでの部門・審査基準の考え方も、青年部の広報紙文化を守り、継続していく意味でとても意義のあるものでした。

ただ、広報紙や一般の新聞・雑誌など、紙メディアの発行部数が多ければ、情報の訴求・波及効果が高かった時代は変わり、テレビ・ラジオから、HP・SNSと様々な訴求・波及効果の高い情報発信ツ

ルが確立されてきた現代において、より青年部の広報活動を幅広く捉え、積極的に活動をしている単会を評価していこうという前向きな改善は素晴らしいと思います。

今年度の審査は、部門、審査基準は見直されましたが、これまで同様、審査員が一堂に会し、オフラインでの会議・審査という形で、直接議論を交わしながら、審査基準に沿って総合的に審査し、採点をおこないました。なお、審査委員会では、今年度は総合的に広報活動を実施していると判断した単会を、最優秀賞として選出。その後、優秀賞を3単会、審査委員会による特別賞として、3単会を選出しました。部門が減ったため、昨年度よりも受賞単会数は減っていますので、より審査委員会に吟味し、絞り込んだ選出となりました。

- 審査結果の詳細
- 実際の作品

ぜひご覧ください! ▶▶▶



審査結果について

審査結果は、今年度は情報発信、情報波及・拡散、活動種類など総合的に高い評価を獲得した、鴻巣市が最優秀賞を受賞。鴻巣市は新たな部門・審査基準に変更した広報コンクールで、最初最優秀賞に輝きました。鴻巣市は、青年部の冠が付いた花火大会を広報ネタの主軸と置き、広報紙、HP・SNS、メディア露出など様々な形で青年部内外、市民、その他の広く一般に、花火の活動を通して、青年部の存在と認知拡大をおこなっている部分を評価しました。鴻巣市青年部の広報活動に関するエントリーシートへの記載も非常に細かく、エントリーシートの文字量なども、今年度のコンクールで最大で、コンクールに対する熱量も感じました。過去のコンクールで、この最優秀賞受賞を15年連続受賞していた、八潮市は、これまで同様に広報紙ではとても高い評価を受けていますが、これまでの広報紙に重きを置いた審査の形から、総合的な活動を評価する形に変わったこともあり、エントリーした単会の中では広報紙以外の広報活動も高評価でしたが、残念ながら今年度は、総合的な視点で見たときに、最優秀賞まではあと一歩、届きませんでした。

今年度の優秀賞は、朝霞市、和光市、八潮市が受賞。特別賞は3単会が選ばれ、和光市、越生町、幸手市が受賞となりました。和光市は、昨年、広報活動部門で優秀賞を受賞していましたが、今年度は優秀賞の受賞に加え、特別賞にも選ばれ、ダブル受賞となりました。和光市が特別賞に選ばれた理由は、今回のコンクールにエントリーした18単会の中で、最も地元メディアへのアプローチをしっかりとおこない、その結果、メディア露出を獲得していることです。メディアへのリリース発信からの新聞記事などで

の露出と、きちんと審査員が確認し、評価できる形でエントリーした唯一の単会です。ぜひ、このメディアへのアプローチは他の単会にも真似してほしいアクションです。越生町は、過去の広報コンクールとエントリー内容は大きく変わっており、広報紙の「ぶらむ」一本に絞った広報活動ですが、単会の規模を考え、5万円という予算の中でできる形としては、最小限の手間と予算で最大限の効果と割り切ったスタイルを評価しました。ずっと形を変えないA4・4Pの外部広報紙に、青年部の事業の地域貢献、経営革新、部員募集など必要情報をコンパクトに詰め込み、4,800部を町内全戸配布するという、青年部の伝えたい情報を少なくとも町内にはしっかりと伝えることに限定する。広報活動のターゲットを明確にして、そこに対する最小限の広報活動をする、これは、忙しく各個人の仕事をしながら、青年部の事業もやり、その上で広報活動をどうするかという悩みに対して、割り切った解決の一つの形かもしれません。幸手市は、デジタル中心の広報体制へ移行を掲げ、AIも積極的に活用。部員事業所のCM動画や、部員募集の告知動画などを作成するなど、他の単会にはない新しい取り組みにチャレンジした姿勢を評価しました。

優秀賞の受賞理由は以下の通り。朝霞市は、今年度も外部広報紙をリニューアルし、毎月2,000部発行と回数を増やし、これまで以上に定期的に青年部の内外にしっかりと情報を届けながら、HP・SNSでも積極的に投稿し、情報発信している部分が高評価でした。特に、SNSは年間120回(月10回程度)の投稿をするなど、他の単会がデジタル強化と言いつつ、投稿数が少ない状況などと比較すると、そ

の点は突出していました。ただ、欲を言えば、SNSでの投稿・発信120回は、一般的には決して多いと言える量ではないため、今後さらに強化するのであれば、より積極的な投稿に期待したい。和光市は、先程も触れた通り、メディアへの積極的な広報活動で、特別賞に選ばれましたが、広報紙、HP・SNSなど複合的な広報活動ができており、全体的な広報活動の印象が良かったと思います。ただ、メディアへの広報活動以外の部分は、広く・浅くという印象もあり、来年度以降、他の単会が複合的にしっかり活動をおこなってきた場合、和光市も広報紙の内容充実、SNSなどデジタルでの積極的な情報発信(投稿回数増)をおこなわないと、連続での優秀賞受賞は難しくなるかもしれません。残念ながら、今年度は優秀賞となった八潮市は、広報紙関連での活動は、これまで同様に非常に評価が高く、その他の幅広い活動に関しても実施していることは、審査員の中でも、高評価で意見が一致していました。ただ、広報紙以外のHP・SNSの発信やメディアへの働きかけという点では、新しい審査基準の中では評価が分されました。

広報紙は内部も外部も情報拡散力は発行部数に比例するため、今年度から審査基準が変わったことで、青年部の広報活動を総合的に審査する場合、メディア露出やSNS拡散に比べ、広報紙の活動は相対的に拡散力や情報伝達力は低くなるため、広報紙はしっかりと発行しつつも、それ以外の活動もしっかりおこなうことが、最優秀賞、優秀賞を受賞するためには必須になってくると思います。

今年度の傾向

今年度の傾向としては、部門の統一、審査基準の変更などの影響か、昨年度までの広報活動のスタイルを変えず、広報紙、もしくは広報活動のどちらかに重きを置いた単会、もしくはコンクールの変更に合わせて、活動に濃淡はあるが、総合的に活動をおこなった単会に分かれました。エントリー単会の多くは、印象として、これまでとあまり変わらない広報活動を実施し、そのまま今年度のコンクールにエントリーしているため、広報紙、もしくは広報活動のどちらかに重きを置いた単会は、おのずと例年に比べると全体的に評価は下がり、広報紙を含め総合的な手法で広報活動を実施した単会は、評価が高くなりました。そのため、昨年度の審査講評でも触れていた通り、部門と審査基準の変更により、物理的に昨年度まで受賞していた常連単会も受賞できにくくなり、今回のエントリーから総合的な活動に内容を充実させてきた単会に受賞チャンスが巡ってきました。来年度以降も、今年の受賞傾向を見ても、青年部内、部外それぞれに合った手法で、情報発信の機会、訴求効果を意識した、幅広い広報活動を実施した単会が受賞する可能性が高いと思いますので、各単会での積極的な活動とエントリーを期待したいです。なお、今年度の審査でも議論になったのは、鴻巣市や吉川市のように、規模が大きく、集客力のあるイベントを実施する単会は、広報活動がしやすいという部分もあり、その点はエントリー内容が派手に見える部分もあるため、公平性の観点からも活動の目的・内容・成果(きちんと因果関係を見せる)をセットできちんとエントリーしているかという点も考慮に加え、厳しく評価していくことになると思います。

次年度に向けて

今年、部門・審査基準の変更があった令和7年度の広報コンクールですが、残念ながら、参加単会数は昨年度より少し、減少しました。昨年は、広報紙・広報活動部門合わせて21単会でしたが、今年度は18単会の参加となりました。

なお、今年度のエントリーした単会の多くは、毎年参加している単会がほとんどで、昨年度までの2部門に分かれていた時と、エントリー内容も各単会、ほとんど同じ内容でした。つまり、2部門が1部門になりましたが、各単会の活動内容は大きく変更なく、過去に広報紙に力を入れている単会は広報紙中心、逆に広報活動中心の単会は、広報紙を未発行もしくは、簡素なものといった形でした。そのため、昨年と活動内容が変わらないからか、エントリーシートの記載内容もほぼコピー&ペーストという単会も見られ、その点は少し残念でした。

各単会は、通常青年部の運営や事業、部員の募集など、広報活動以外にもやる事がたくさんあるので、急に広報コンクールの部門が変わり、審査基準が変わると言われても、実際に単会でおこなっている広報活動自体を見直し、コンクールに合わせて変更することが難しいことは、とても理解できます。そのため、今年度は日ごろおこなっている広報活動が、新しくなった総合的な部門、審査基準で評価されるかどうか、ということを知る機会になるかもしれません。

青年部の広報活動を、コンクール基準で変更する必要はないですが、より、総合的な視点で審査をするようになったコンクールで評価を受けるということは、広報活動における様々な手法を駆使して、情報を伝えたい相手にあわせて、情報発信ができている証と理解いただき、自身で単会の広報活動を見直す際の一つの指針として受け止めていただければと思います。

令和7年度「第43回 埼玉県商工青年の主張大会」表彰結果 (敬称略)



最優秀賞(県知事賞)

● 久喜市商工会青年部 竹下 学

優秀賞

● 新座市 滝田 孝徳 ● 長瀬町 林 竜汰 ● 東松山市 谷嶋 紀彦
 ● 毛呂山町 小野 哲也 ● 西秩父 守屋 友晴 ● 宮代町 中山友里恵
 ● 志木市 古志 彩子

特別賞(優秀賞の中から2名)

● 埼玉県産業労働部長賞 志木市 古志 彩子
 ● 埼玉新聞社社長賞 長瀬町 林 竜汰

埼玉県商工会青年部連合会 令和7年度 福祉親睦事業 「ドッジビー大会」

令和7年9月15日(月)、コスモスアリーナふきあげにて福祉親睦事業「ドッジビー大会」を開催しました。

当日は125名の青年部員が参加し、8チームに分かれて競技を行い、部員相互の交流を深め、大会終了後には、懇親会を開催し、親睦を一層深める時間となりました。



令和7年度 事業目標「経営革新推進運動」

県青連では、各単会の経営革新の承認件数を事業目標として推進しています。

経営革新のメリット

- ① 様々な支援措置を受けることができる!
- ② 対外信用度、認知度がアップする!
- ③ 中小企業施策を活用する道が開ける!
- ④ 事業の現状や課題を見極めることができる!
- ⑤ 組織力を向上させることができる!
- ⑥ 内外に対する説明資料となる!
- ⑦ 経営計画をより磨き上げることができる!

POINT 1 信用力が向上!

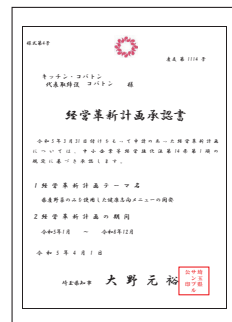
金融機関への信用力が向上した。
取引先からの信用が増した。

POINT 2 経営計画に転換!

経営計画の手法を習得できた。
夢の実現に向けた具体的なスケジュールを作成できた。

POINT 3 知名度が向上!

県のHPに掲載されてから問い合わせが増えた。
営業活動の際の話題提供に活用できた。



関東ブロック商工会青年部連絡協議会 令和8年度前期関東大会のお知らせ

令和8年9月15日(火)・16日(水)開催

スローガン

ありったけの **まごころ** 愛心 で紡ぐ地域と仲間たち

—— 競い合いの大会を、称え愛の大会へ ——



1日 9月15日(火)		2日 9月16日(水)
式典・主張大会・物産展	交流会	顕彰選考会
大宮ソニックシティ 大ホール	パレスホテル大宮 大宴会場 ローズルーム ホワイエ	大宮ソニックシティ 小ホール

この夏、埼玉がひとつになる。
まごころ 愛心で紡ぐ最高の舞台を、関東へ、次代へ。